

# 希望の種

ふくおか NPO ファイル

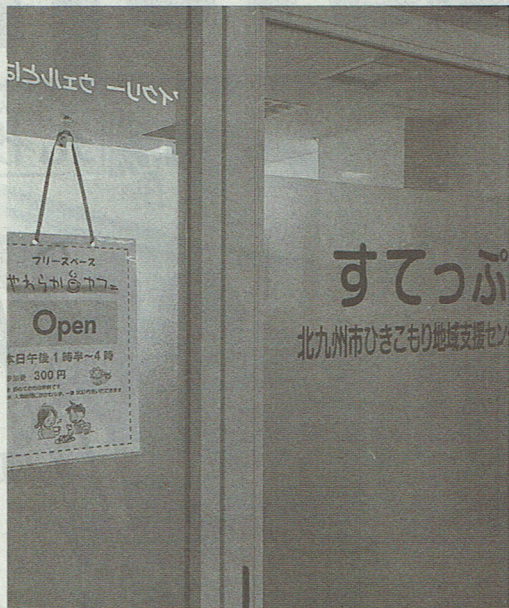
28

JR戸畑駅を出て目の前にある、地域福祉活動の拠点づくりやまちづくりを目的とした複合施設「ウェルとばた」その2階に、北九州市ひきこもり地域支援センター「すてっぶ」があります。市からの委託でセンターを運営するのは、NPO法人「STEP・北九州」。前身である不登校支援の市民団体を2006年に解散し、07年に「家族会」「当事者会(自助グループ)、フリースペース運営兼事務局の役割をする「STEP・北九州」と、目的別のグループに分割して再スタートしました。

昨年度、引きこもりの当事者やご家族からセンターへの相談は、来所、電話、訪問などを含め316人延べ1483件だそうです。

## STEP・北九州

事務所=北九州市戸畑区▽電話番号=093(873)3130  
メールアドレス=step@step-kita.com



フリースペースもある「北九州市ひきこもり地域支援センター」

# 引きこもりの人支え

16年9月に内閣府が発表した「若者の生活に関する調査報告書」によると、15〜39歳で学校や仕事に行かず、近所のコンビニに買い物に行くなど以外は自宅に半年以上閉じこもり、「引きこもり」と定義される人は、全国で推計54万1千人。この調査では、40歳以上が調査対象外になっており、引きこもりの長期化と高齢化の実態は、さらに深刻と考えられます。

STEP・北九州は、通常

の相談事業に加えて、センター奥のフリースペースを活用した「やわらかカフェ」という交流タイムを毎週火曜と木曜に開催しています。利用者の中心は20代から40代。毎回6〜8人が参加し、おしゃべりやゲームなどで時間を過ごします。常連になる人もいれば、たまに参加するだけの人、就職や進学で他県に引っ越した後にも、懐かしがって顔を掛けてくれる人もいます。

STEP・北九州は、当事者にとって階段の踊り場のような存在です。外に出て少しづつ生活を立て直そうとする際は、一休みしながら、センターでの人との出会いや交流からエネルギーを補充する。そして自分のタイミングで次のステージへのチャレンジをし、またいつでも戻ってこられる、といった具合です。

「一人一人はもともと持っている『型』が違うもの。それを社会の仕組みや規範の『型』に無理に押し込めよう」とすると、不調が生じてしまうことがあるのでは」と下川さんは語ります。今でも季節の変わり目で調子が崩れたら、ストレスで気持ちが重くなったりすることもあります。自分の『型』の特性を知り、不調が生じた際は、出会った人の力を借りながら無理せず、付き合っていくようにしているそうです。

に学校に行けなくなつてから、20代前半まで家に引きこもりました。始めてからは精神科医、家族、支援者、引きこもりの当事者、地域の人々と、出会ったさまざまな人たちに支えられました。その中でも一番の支えになったのは、根気強く話を聞き、寄り添ってくれた田中美穂さん(66)、現STEP・北九州理事の存在でした。

「仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介」

STEP・北九州が近年、特に力を入れているのは「縁が輪ネットワーク」と名付けられた地域支援者の横のつながりをつくる取り組みです。メンバーは飲食店の店主、教員、画家、歌手、カメラマン、税理士、主婦、寺の住職などさまざま。多様な経験と知恵のある人たちとのつながりの中で、若者が自分を知り、その芽を自ら育てることができるよう域づくりを目指しています。